

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 4570300667 | | |
| 法人名 | 株式会社 悠隆 | | |
| 事業所名 | グループホーム「さくらの杜」A棟 | | |
| 所在地 | 宮崎県延岡市夏田町345-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年7月25日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 宮崎県介護福祉士会 | | |
| 所在地 | 宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年9月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今回注力したのはアクティビティの内容を充実することによって、入居者の喜びや楽しみを増やそうとしたことである。具体的には①季節にあった壁面飾りをつくる②ミニ運動会を楽しむ③イタリアンシェフの出張イタリア料理と鮪職人の握り鮪をさくらの杜で味わう。特にイタリア料理は初めての入居者もいて「長生きするといろんなものが食べられるわ」と、とても喜んでいて。さらに握り鮪も全員大好物で目を輝かせて召し上がり、びっくりするほどの食欲を見せていた。このようなアクティビティを実施することによって入居者は積極性を増し活動的になっていく。職員もその支援にやりがいを感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周囲には田園が広がり、落ち着いた雰囲気の中に立地している。管理者は、職員間の和と連携が入居者の心地よい支援につながることを一番に考えて、気配り・目配りをしている。地域住民との交流期間も長く、可能な限り入居前の友人・知人との関係性を維持・継続できるように努力している。アクティビティ面にも力を入れ、入居者の興味・関心ごとを引き出すように、言葉かけを行い、様子観察をしている。コロナ禍の中で、外出、交流が減少しているが、ホーム内での入居者同士の交流促進を行い、一人ひとりに孤独感をもたせることがないように努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | H24年に職員全員で作り上げた理念のローガン「咲かせよう、笑顔の花を」のもとに、お互いに気付いたことを教えあいながら、入居者へ敬意をもった言葉遣いや態度が定着した。 | 事業所理念はあるが、文字数が多いため分かりやすい事業所理念を職員から募集し全員で作ったものを掲示している。入居者を中心に職員、地域共に笑顔になることを目的として定着に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | さくらの杜の夏祭りには地元住民を招くことが恒例となり15年続いている。住民は楽しみにして大勢の人が来てくれるようになった。また地元住民の協力のもとに避難訓練を毎年実施している。また認知症サポーター養成講座も実施している。 | 長年、地域住民と交流する中で、グループホームという事業の役割の理解が得られ協力関係が進んでいる。コロナ禍の中で地域住民との交流ができなくなっている残念な状況がある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域住民と家族を対象に認知症サポーター養成講座を開催した。このテーマは地元住民の要望に応えたもので、毎年実施し認知症の理解が深まるとの感想があった。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月ごとに必ず開催し4月で第86回となった。「活動状況報告書」、「日々の暮らし写真アルバム」を報告している。構成員である区長さんから避難訓練の日程について地元住民が参加しやすい日を教えていただき、多くの人々の参加が実現している。 | 定期的に行う避難訓練等の協力の中で、グループホームの持つ意味の理解が得られ、地域内に受け入れられる存在になっている。コロナ禍の中では文書による意見交換ができるように努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 定期的には「運営推進会議」で活動状況報告書で報告している。制度変更などで判らないことがあれば随時相談している。市は親切に教えてくれる。(継続) | 不安なことがあると即相談の電話をかけられる関係が維持できている。対等な関係性が構築されているため安心できている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 平成30年4月第71回運営推進会議に併設して第1回身体拘束適正化委員会を立ちあげ、以降2ヶ月毎に開催している。毎年2回、全職員対象のホーム内勉強会で「身体拘束と虐待の防止」の理解を深めている。玄関は、安全確保のため家族の了解のもとに施錠しているけれども、入居者に出たい様子が見られたらすぐに開錠し職員が付き添い、本人が納得するまで一緒につき添っている。 | ホームが建物の2階に位置しているため、玄関を開けたら直ぐ階段になっている。転落等事故の危険性を考慮し、玄関施錠を行っているが、入居者の行動、表情にも注意し外出希望に積極的に付き添い「心に鍵をかけない」ケアの徹底に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 言葉遣いや表情・態度も虐待につながることを防止するために職員相互に注意し合っている。特に夜間帯は2人になるので対応困難な場合はいつでも管理者が駆けつけるようにして夜勤者を支援している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者と職員はホーム内勉強会で制度の理解を深めている。現在、成年後見制度利用者は1名いる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明を行った後質問を受け、同意を得るようにしている。苦情はこれまで発生していない。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 機会は家族懇談会と運営推進会議を設けている。家族懇談会では職員が席を外して家族のみで意見要望を出してもらっている。とくに意見は無かった。 | 家族懇談会ではスタッフが席を外し、家族のみでの交流を行い、施設に対する意見・要望を出せる機会の提供を行っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 処遇面の改善(昇給、一時金)を継続し、時給をアップした。資格試験を受験したいという前向きな職員が多く、資格取得に向けてバックアップしている(勤務交代など)。 | 2ヶ月に1回は管理者が法人会議に出席し、現状を伝えている。研修受講などの積極的支援を行っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 会社はキャリアアップにともなう処遇制度を確立し職員のやる気を引き出している。(継続) | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 社内研修を年8回、社内外から講師を招き全職員を対象に実施している。さらにホーム内勉強会を年8回、認知症のケア、虐待・身体拘束防止などをテーマに実施している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県北ブロック研修会に参加し、意見を交換した。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 法人の入居担当者が本人、家族、施設関係者から話を聞いて入居前の状況を把握している。家族には必ずさくらの杜を見てもらい、本人にも来ていただき、納得した上で入居してもらっている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族には必ずさくらの杜を見てもらい、家族のこれまでの御苦労や思いを聞いて気持ちを受け止めるようにしている。(継続) | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ケアプランは、適正なケアサービスが受けられるように家族から詳しくお話を聞いてそれに基づいて作成している。家では夜間、目が覚める度に不穏になって叫んでいた入居者には職員が目覚める度に寄り添い声掛けをする事によって入居してすぐに改善がみられた。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常の入居者との会話や面会にきた家族のお話から、入居者のこれまでの生きてきたご苦労や人柄がしのばれ、職員は入居者に身内のような近さを感じている。職員にアドバイスしてくれる入居者もいる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者に変化があれば逐一家族に報告し、行事には出来るだけ参加してくれるようお願いしている。また家族の中には月に1回「笑いヨガ」の講師をボランティアでやってくれていて入居者にとって無くてはならない活動になっている。(継続) | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 在宅時に続けてきた地域の人たちとのグラウンドゴルフやカラオケ教室に入居後も続けられるように支援している。また地域の敬老会にも参加した。 | これまでの関係性を維持するために、楽しみの場に参加することを支援し、関わる地域住民たちと送迎なども相談のうえ、協力が得られている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | トイレや洗面台を譲り合ったり、食べきれないゼリーなどを好きな人にあげたりしている。体調を崩した入居者には、「大丈夫かね」と心配して声をかけてくれている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居し、新たな施設に移られた方には、ケアサマリーを必ず受入先に渡している。他の施設に移られた方には時々訪問して話をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員は日々のケアの中で、思いや願望を何げないつぶやきや表情から読み取り、気づいたことは速やかに実行している。帰宅願望で不穏になった入居者には得意な料理をしてもらうなど、カラオケ、ドライブ、だんご作りなど支援を工夫している。 | 本人が入居前に続けてきたことなどをできる限り支援する姿勢をもち、入居者の観察を行いながらやりたいこと、得意なことに着目し、支援を行っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アセスメントについては本人からはもちろん家族からも情報を得ている。(継続) | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人毎の生活パターンを尊重しながら、日常の観察よって、わずかな変化を見逃さないようにしている。(継続) | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプラン作成はモニタリングアセスメントの一連のフローで実施している。実施に際しては本人、家族の意見や要望をお聞きし、それに介護職員のアイデアを取り入れて作成している。おおむね半年毎に見直し変化に対応している。 | 介護記録を目標にそって記入し、職員の気づきなども記載することで、モニタリングにも活用ができています。本人の意向なども記入され、ケアプランの内容に活かしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録にはケアプランの短期目標を記入し、日々のケアに生かすと共に、変化や職員の気づきがあればすぐ「気づき欄」に記入し、個別カンファレンスを開き、それをケアプランに反映させている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 病院受診の付き添い、受診の順番取りをすることもある。(継続) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 夏田町区長はじめ地元住民、慰問ボランティア(千鳥会)の協力支援を受けている。特に避難訓練は地元区長、住民の協力を得て毎年実施している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人と家族の納得の上で協力医療機関と関係を築き、訪問診療や24時間対応の医療連携体制をとっている。わずかな体調の変化もすぐに看護師に報告し早期治療につなげている。歯科医も往診してもらっている。(継続) | 同一法人の医師、元々のかかりつけ医との関係性を築き、心配になることがあるときはすぐに電話で相談を行う。訪問診療も受けられるため早期の対応ができる。異常の早期発見に努めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療法人「悠隆会」の看護師が24時間体制で待機している。さらにH19年7月から医療連携体制を実施し、1週間に1度訪問看護師による訪問看護がなされ健康管理に役立っている。(継続) | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院するときには必ず管理者が付き添い、状態や状況を説明すると共に、「ケアサマリー」を看護師に渡している。退院時にはケースワーカーと打ち合わせ、看護師から文書で報告を受けている。(継続) | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や終末期については、指針のもとに早い段階において医師とともに家族に説明して話し合いを行っている。状態が変化したときは家族に連絡するとともに主治医、方針を共有し最善の支援をするようにしている。(継続) | グループホームの性格上、重度化した場合の必要物品も揃っていないため、入居前、入居後に家族と相談を行い、医師等とも相談し安心できる場を提案している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎年1回、消防署に出向いて救急救命士を講師とした心肺蘇生、AED実技の訓練を受講している。職員全員が実践できるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を地元区長、住民の協力を得て実施している。「洪水時 要配慮者利用施設 避難確保計画」を作成し、2019年12月延岡市に提出した。 | 避難訓練の協力体制が築けており、台風接近などには近隣住民が気にかけてくれる。最近、大きな台風の影響でコミュニティーセンターに避難をしたが、初めての経験で気づきを得ることができた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉かけは敬語を基本とし、入室の際や排泄・入浴の場面ではプライバシーを確保している。介護記録等は所定の場所に管理している。また職務上知り得たことを口外しないことは就業規則で定めている。(継続) | 入居者に対する言葉かけには、常に慎重に尊厳のある言葉かけに努めている。職員研修も定期的に行いケアの質の向上に役立っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者の何気ないつぶやき、表情、体調、などから希望や思いを読み取り、それをできるだけかなえるように努めている。イタリアンシェフ、鮎職人をさくらの杜に招き、腕をふるっていただいた。外出困難な入居者も一緒に皆で味わうことが出来、好評であった。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員は入居者の希望やその人の精神状態を鋭敏に読み取り、その希望の実現、不穏の防止をしている。精神状態に変化の兆候が見られた場合には、通常業務を後回しにして気分転換の支援(散歩やドライブなど)を最優先に実施している。(継続) | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居者の生活習慣を読み取って毎日のお化粧や白髪染めができるように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 好みの郷土料理(冷や汁、魚寿司、だんご)をとりいれ、一緒に作って楽しんでいる。梅干しやラッキョウ漬けが得意な入居者は毎年漬けて、常備菜として喜ばれている。 | 懐かしい材料を使い郷土料理も提供している。栄養たっぷりの具材を多く使い、見た目からも食欲が出るような、美味しい食事が提供されている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | その人にあつた食事を提供するようにしている。具体的には形態(おかゆ、ペースト状)、好み、減塩(高血圧症)、など個別に対応している。発熱時や夏場には特に十分な水分補給をするようにしている。(継続) | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は必ず口腔ケアの支援をしている。利用者の状態に応じて声掛けや誘導、みがき残しの介助をしている。(継続) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者全員の『排泄パターンシート』を記録把握して、トイレ誘導声掛けに繋げている。中には昼間は布パンツ、夜のみ紙パンツにして自立を支援し、たまに失禁した場合はなぜ失禁したのかを職員全体で分析して失禁を減らすケアに努めている。(継続) | 排泄パターンシートの記入により、その人の排泄リズムを把握し、トイレの誘導回数を増減するなどのケアの工夫がなされている。職員全員で把握できる形で役立っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜の摂取を出来るだけ多くするため、味噌汁の具材は野菜を多く入れている。芋類を積極的に摂取、ウォッシュレット刺激、腹部マッサージを取り入れている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 現状では一人当たり週に3日～4日入浴している。希望があればいつでも入れるようにしている。 | 週に3～4回は入浴できるように支援している。設備上の問題もあり、必ず職員が付き添い介助を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 眠れない入居者には、昼間の活動を増やしたり、夜勤者がゆっくり話をお聞きすることで、不眠の訴えが減っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 誤薬防止のために、薬を個人ごとに、朝分、昼分、夕分をセットしてから与薬するまでの過程ステップ毎に確認内容、担当勤務を明確化し、チェックリストを作り2重チェックするようにした。これを継続することによって改善され、誤薬はなくなった。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物ほし洗濯たたみなど得意分野でそれぞれ力を発揮してもらっている。嗜好品としては焼酎やコーヒーを楽しんでもらっている。楽しみ事としては季節ごとの壁飾りづくり、室内でのミニ運動会を実施して楽しんでいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外気浴や散歩をしている。希望をされた方には道の駅「よっちみろや」・「はゆま」にお連れしている。最近は新型コロナウイルス感染防止のため自粛している。 | 周囲に田園も広がっているため、希望があれば散歩に出かける支援を行っているが、コロナ禍のためあまり外出できない状況が出ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を管理できる入居者には自分で所持して自分で使うようにしている。管理が困難な入居者のお金は、施設の事務員が預かっている。必要な時には事務員がその中から支払っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は自分でかけたり、希望があれば職員がダイヤルして話してもらっている。手紙は友人や家族に自分で書いて、それを職員が投函している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 職員が自宅から花を持ち寄り飾ることによって、季節感を醸し出している。換気には気を配っている。味噌汁やご飯の炊けるにおいがほのかに漂い生活感を感じるようにしている。(継続) | 壁には懐かしい写真、新聞記事などが貼られ、居心地のよさが感じられる空間の配慮がなされている。全体的に落ち着いた雰囲気の中での生活空間になっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアにソファを置いている。ソファに座りくつろいでお話を楽しんでいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | その人の馴染みの品を家族の協力を得て持ち込んでいる。また家族の写真、かべ絵、花、植物などを飾っている。 | 家族写真も貼られて、自身の部屋と思える居室の配慮がなされている。適度に光も入り、その人なりの雰囲気が出ている居室作りになっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 見当識障害がある入居者には、トイレや居室に表示や目印をつけることで混乱なく生活している。(継続) | | |